

R S ウイルス母子免疫ワクチンを受けられる方へ

予防接種に関する重要な情報です。必ずお読みください。

病気について

R S ウイルス感染症は、R S ウイルスに感染することによって起きる呼吸器の感染症で、2歳になるまでにはほぼ100%の児がR S ウイルスに感染するといわれています。ウイルスの潜伏期間は2～8日（典型的には4～6日）とされており、感染すると数日にわたり発熱や鼻汁、せき、のどの痛みなど、かぜの症状が続きます。症状が重くなると、強い咳や喘鳴、呼吸困難など、細気管支炎や肺炎の症状が認められるようになります。特に乳児期早期（生後数週間～数か月間）や、早産児、慢性肺疾患などの基礎疾患がある児は重症化する頻度が高いといわれています。重症化すると入院となり、人工呼吸器を装着する場合があります。特効薬はなく、治療の基本は症状を和らげる対症療法や、呼吸を助ける治療になります。

また、乳児期にR S ウイルスによる細気管支炎に罹患した後、長期にわたり反復性喘鳴を認めることもあります。

R S ウイルス母子免疫ワクチンについて

R S ウイルス母子免疫ワクチンは、R S ウイルスが体内の細胞に侵入する際に働く「Fタンパク質」を、組換えDNA技術により改変したタンパク質を抗原として作られたワクチンです。

妊婦がR S ウイルス母子免疫ワクチンを接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。

母子免疫について

妊娠中にお母さんから赤ちゃんへ、胎盤やへその緒を通じて抗体の一部が移行することを母子免疫といい、生後数か月の間、免疫が未発達な赤ちゃんを感染から守るといわれています。

定期接種対象者

接種日当日、妊娠28週0日～36週6日の妊婦

※過去の妊娠時に組換えR S ウイルスワクチン（母子免疫ワクチン）を接種したことがある人も対象です。

予防接種の受け方

1回、筋肉内に接種

※母子免疫ワクチンとして接種できるのは、ファイザー社の組換えR S ウイルスワクチン（アブリスボ®）です

【R S ウイルス母子免疫ワクチン接種の際の注意点】

- ・妊娠経過を診てもらっている医師とよく相談し、接種を受けるかどうかを決めてください。
- ・R S ウイルス母子免疫ワクチンは、妊婦さんに接種後、赤ちゃんへ抗体が移行するまでに14日以上必要とされています。そのため、帝王切開等で妊娠38週6日までに出産を予定されている場合は、その14日前までに接種を受けることが望ましいとされています。接種の時期については、妊娠経過を診てもらっている医師とよく相談して下さい。

裏面もご覧ください

- ・過去の妊娠を含めて今までに、妊娠高血圧症候群と診断されたことがある人や妊娠高血圧症候群のリスクが高い人は、接種にあたり注意が必要な人です。該当する人は、妊娠経過を診てもらっている医師と接種についてよく相談してください。
- ・百日咳菌の防御抗原を含有するワクチンを同時接種した場合、百日咳菌防御抗原に対する免疫応答が低下するとの報告があるため、接種間隔等については医師と相談してください。

予防接種を受けることが適当でない人

- ① 接種日当日、明らかな発熱を呈している人（通常 37.5℃以上）。
- ② 重篤な急性疾患にかかっている人。
- ③ 予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな人。
- ④ その他、予防接種を行うことが不適当な状態にある人。

予防接種を受けるにあたり注意が必要な人

- ① 今までに妊娠高血圧症候群と診断されたことがある人、および妊娠高血圧症候群のリスクが高い人
- ② 抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または凝固障害のある人
- ③ 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する人
- ④ 過去にけいれんの既往のある人
- ⑤ 過去に免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑥ 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある人

RSウイルス母子免疫ワクチン接種後の注意と副反応について

①接種後に、注射による心因性反応を含む血管迷走神経反射として、気を失うことがあります。気を失って転倒してしまうことを避けるため、30分程度は接種した医療機関で、体重を預けられるような背もたれのある椅子に座るなどしたうえで、なるべく立ち上がらないようにして安静にしてください。

また、医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。

- ②接種後 24 時間は、副反応の出現に注意してください。
- ③体調がよければ接種日当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすらないようにしてください。
- ④接種日当日はいつもどおりの生活をしてかまいませんが、激しい運動はさけてください。
- ⑤接種後の局所の副反応として、接種部位の疼痛、腫れ、紅斑など、全身反応として、頭痛や筋肉痛がみられる場合があります。また稀に報告される重い副反応としては、ショック、アナフィラキシー（呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）があります。

接種後 1 週間くらいは健康状態に気を付けてください。

接種後、接種部位の強い痛みがある場合や体調の変化など気になる症状がある場合は、すみやかに医師の診察を受けてください。

※体調の変化等で医療機関を受診される場合は、親子（母子）健康手帳をお持ちいただくとともに、RSウイルス母子免疫ワクチンを接種したことをお伝えください。また、下記にもご連絡ください。


（予防接種健康被害救済制度について）

重篤な副反応が出現する頻度は極めて稀ですが、みなさんが安心して予防接種が受けられるように、予防接種法では健康被害救済制度がもうけられています。

健康被害が生じた場合、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因によるものなのかの因果関係を予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審議会にて審議し、予防接種に

よるものと認定された場合は、法に基づく健康被害給付の対象となります。なお、接種時に胎児であった場合でも、その後出生した児については、この制度の対象となります。

<お問い合わせ先>

大東市地域保健課【すこやかセンター（保健医療福祉センター）3階】  072（874）9500

四條畷市立保健センター  072（877）1231